

第3回原野谷学園新たな学園づくり地域意見交換会 主な御意見・御質問

日 時	平成31年1月26日（土）13:30～15:00
場 所	原野谷中学校体育館
出 席	地域住民約81人（検討委員会委員含む） 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学校教育課長 企画政策課長、学校教育課指導主事 教育政策室長 教育政策室係長、教育政策室指導主事 教育政策室主任、教育政策室主事

1 小中一貫教育・学校施設について

(1) 御意見

1	<p>【細谷の方】</p> <ul style="list-style-type: none">○子どもたちの通学の仕方について伺いたい。仮に校舎が原野谷中学校として、細谷の一番南の方からここまで来ると片道5kmあり、小学生の徒歩での登校は無理な話だと思う。○天浜線で通学するとしても、多くの児童の乗車に対応できるのか。無くなるかもしれない路線という話も聞いたので、車両を増やすことも難しい話である。また、通学定期を買うと月7,000円程であり、子どもが2人いると月々14,000円くらいとなり、家計を圧迫する。そこをどう考えたら良いか。○小学生は電車で、中学生になったら自転車ということとなると、子どもたちが嫌がると思う。○親の送迎も含め、通学に関しての交通面について御教示いただきたい。 <p>【事務局の回答】</p> <ul style="list-style-type: none">・今掛川市では小学生は4km以内は歩き、それ以降はスクールバスということをお願いをしている。通学距離が長い児童についてはスクールバスを市で用意し、通学することになると考えている。
---	--

2	<p>【細谷の方】</p> <ul style="list-style-type: none">○片道3.6kmを1年生が通うことに無理があると思う。これだけ交通量が多く、歩道もないところが多い森街道で、往復7キロ歩いて通うというのはどうか。○家族の車での送迎、または保護者が費用を負担しての天浜線での通学は可能か。 <p>【事務局の回答】</p> <ul style="list-style-type: none">・現在、市内の他の小学校では歩いている児童もいる。規程では4キロと設定している。・通学で路線バスを使う場合の定期代については、4キロ以上の子どもについては市で全額負担している。・保護者の学校への送迎は、学校の下承を得れば可能。
---	---

3

【寺島の方】

- 原野谷学園を整備したときに、どのくらいの生徒数と教室数を推計しているかの資料があれば教えていただきたい。原谷小学校・原田小学校・原野谷中学校の6年後の人数や、その子どもたちが15歳になったときの学校規模、クラス数の推計により、さらに統廃合の対象になることは避けたい。
- 原野谷地域をなんとかして人口減少しない地域として発展させたいと思って住んでいる。原野谷中学校は駅から近く、可能性のある様々な使い方があると思う。

【事務局の回答】

- ・6年後の児童生徒数については、原田小・原谷小合わせて253人。学年別では6年生が46人、5年生57人、4年生43人、3年生45人、2年生37人、1年生が25人と推計される。1学年40人前後である。
- ・その後の推計については、国立社会保障人口問題研究所が出している推計の比率に合わせた推計値では、2025年は252人、2030年は235人となり、減少している。

4

【寺島の方】

- 1学年40人は、1クラスか2クラスかという微妙な人数である。
- 集団生活の中で社会性を身につけていく小学校1年生から6年生まで、私はずっと1クラスだった。濃密な人間関係の中で仲良くしてきた。もしかしたら辛い6年間を過ごした同級生もいたかもしれない。小規模校はよさも欠点もある。
- 他の市内の学園の、小規模校としての問題点や、説明会での意見等の情報もいただきたい。

【事務局の回答】

- ・現況として、大きな学校を作っても生徒数があまり増えないというご心配の気持ちは理解できる。一方で、原野谷中学校校区をまず基本的に一つのエリアとしており、将来的な子どもの数を考えて適正な規模、クラス替えのできる、複数学級のある学校にしたいと考えている。また、市内の全ての学校をそうしたいという思いがある。
- ・今後、原野谷学園の新たな学園づくりの事業とは別に、市内全域の学校の適正規模と適正配置について、教育委員会で調査・研究をしていこうとしている。その中でまたいろいろな考えが出てくるかと思う。

5

【寺島の方】

- 4kmまでは歩きで4kmからはスクールバスという話があったが、中学生も同様かか。中学生は2km以上は自転車ということになっていると思う。そうなると4kmまで歩きというと、小学生は大変かと思う。

【事務局の回答】

- ・全市一律小学生は4キロ未満は徒歩、4km以上についてはスクールバスを用意している。中学生については、6kmを超えるとスクールバスで対応。自転車通学は2kmからで、6km以上になればスクールバスでの通学となる。

6

【上新田の方】

- 今の段階で意見交換をして、今後どうするかを考えていく途中だと思うが、いただいた状況報告の中で、裏面、施設一体型の学校の良いところが紹介されており、今の意見の中にも課題となりそうな意見もあると思うが、推進をしている委員会の皆さんにとって、なぜ施設一体型が良いのかということをお伺いしたい。
- 今後どのように最終決定に至っていくのか、スケジュールとプロセスをお伺いしたい。

【委員長の回答】

- ・施設一体型の良い点について、先ほど説明の中に無いこととしては、まず教員の指導力が上がるという点が挙げられる。小学校と中学校が一体化した学校で運営され、中学校の教科指導の専門的な力を小学校の教員が間近で見て、自分の指導力を上げることができる。逆に小学校の教員は丁寧に子どもを見ていく姿勢があり、中学校の教員が見て、指導力を相互に上げていく。また、子どもの表れも9年間見ていくことができる。小中学校が離れていると、子どもの情報については、書類や会議の時に共有するだけとなるが、一体型であれば、子どもを小学校時代から見ていくことができる。
- ・小学校1・2年生から9年生（中学校3年生）は大きな兄さんお姉さんでしっかりしている。ああいう中学生になりたい、というあこがれの気持ちを抱く。上級生から見ると小さな下級生を大切にしようとする。例えば手を繋いで下級生を案内する光景が学校の中でよく見られる。上級生は思いやりの気持ち、下級生は上級生へのあこがれや目標とする気持ちや態度が育つことになる。

【事務局の回答】

- ・大阪府にある小中一貫教育を施設一体型の学校で取り組んでいる学校へ視察に行ったとき、中学生が下の子の面倒をよく見るので、非常に優しくなっているということ、不登校が0になったということ等の話を伺った。また、児童生徒の問題行動も減少し、小中一貫教育の効果が非常に高いことを御教授いただいた。
- ・今後のスケジュールについては、今年の3月までに、検討委員会の提言をまとめ、それを教育委員会に提言していただくようになる。教育委員会は提言を市長にも上げ、今度は市としてどのように対応していくかを検討していく。市の検討結果は、いつ頃出るか申し上げられないが、具体的に動き出したら、基本構想、基本設計・建物の実施設計等を行っていく。その後2年間の工事を経て開校となる。概ね6～7年かかる予定である。

7

【本郷西の方】

- この検討委員会は性格上、教育委員会の諮問機関的な役割を果たしていると思うが、ここで決定されたことがそのまま実行されるということではなく、それを受けた教育委員会が実行に移していくことになろうかと思うが、そういう役割の検討委員会ということで了解して間違いないか。
- 今後、基本構想を教育委員会で作る際に、提言の(3)地域住民の要望をできる限り反映していただきたい、という項があり、これを受けていただけていると思っている。検討委員会の報告書には、原野谷中の目指す学校の姿というのが見えて思い浮かばない。どういう原野谷中にしたいのか、そのために基本構想の中で地域住民の要望をどういう形で取り入れていただけているのかという心配がある。昨日、中央教育審議会の答申が出され、教員の働き方改革が触れられている。教職員が

本当に多忙で、これからは学校の教員も働き方を変えなければいけない。そのため昨日の答申では、学校と地域は協働、地域の力をもっと取り入れることを謳っている。地域に開かれた学校、地域とともにある学校という姿でないといけないと思う。学校評議員は、学校が評議員を選び、学校にとってよい答えを出すようなところがあるが、学校運営協議会を設置して、地域も学校に対して責任を持つということが必要だと思う。こうしたことも、盛り込んでいけばと思う。

- 原野谷中学の目指す学校の姿というのを是非検討委員会でもう一度検討してもらいたい。さらに、基本構想を作るときに、その情報を今回のように流していただきたい。

【事務局の回答】

- ・学校の目指す姿を基本構想を策定する中で、地域のみなさんと一緒に創っていきたいと考えている。施設面に関しては、全部を説明すると時間が長くなるので、報告書の中に検討委員のみなさんがこういった学校にしたい、こういった施設があるとよい、ということに記載する予定でいる。一方、具現化していくための具体的な検討については、基本構想を策定する段階で考えていく。

8 **【細谷の方】**

- 日本に働きに来ている外国の方と一緒に仕事をすることがある。そうした方々が自分のお子さんを桜木小学校に入れるという話をよく聞く。どれだけ桜木小に外国籍の子がいるかはわからないが、教育委員会や保護者が、外国籍の子と同じクラスになり、増えることをよいこととして前向きにとらえているのか、それとも母語が違うということで面倒が増えるという認識であるのか。

- 人口が減るという課題に対して、日系ブラジル人の子が通いやすい学校にしたら、人口は増えると思うがどうか。ブラジルの子が定住して教育を受けやすい小中一貫校があるとなったら、100人でも200人でも簡単に集まると思う。教育をする側、受ける側がダイバーシティ的な観点から、それをよいと考えるのか、面倒ととらえるのか。

【事務局の回答】

- ・掛川にいる方で、学校に行っていない外国籍の子はほとんどおらず、ほぼ学校に通っている。迷惑ではなく、子どもたちが地域の住民としてやがて大人になっていくために、日本の教育を通して、日本人と同じ社会生活を営んでいくためには、日本の学校で教育を受け、日本人の資質を身につけていくことが大事だと思う。当然学校で教育を受けるべきと考えている。

9 **【細谷の方】**

- 日本人として教育するのは良くない。日本で暮らしていく上で必要なマナーや知識教養は身につけるべきだと思うが、アイデンティティをなくす教育はいかがか。不就学の子どもがいるわけではなく、原谷として前向きに受け入れるということであれば、生徒数の減少は無くなると思う。学校によっては日本語があまり堪能じゃない子どものための通訳を、他の子どもがやらされているという現状がありどうかと思う。子どもは、日本語が喋れるけどお父さんお母さんは話せないという方も多い。子どもが保護者に書類の通訳をすることもある。例えば学校でポルトガル語ができるボランティア教員を週に1回でも入れたらどうか。そのことで移住も増えると思うがいかがか。

○検討委員会において、一体校を作るということについて、これまで色々と検討し、分離型よりも一体型の方が良いということで意見がまとまってきている。一体校にした方がメリットが大きいのであれば、子どもを大事に考えるのであれば一体型に決めたら良いのではと思っている。

【事務局の対応】

- ・日本語がほとんどわからない子どもたちが外国から日本に来た場合、菊川市、掛川市、御前崎市の3市で委託している日本語初期指導教室に、2～6ヶ月くらいの間、日常的な会話ができるまで勉強し、それから学校へ就学するようにしている。さらに市で4名、外国人児童生徒支援員を雇用し、通訳が必要な場合には、学校からの要請に応じて通訳や翻訳をしている。

10 **【西山の方】**

○基本的に2学級ある学年がずっと継続できればと思う。そのために施設一体型の学校を望んでいる。浜松中部学園は、通学区に関係なく他の学区から来ていると話していた。今回作られる原野谷学園も、素晴らしい学校を作ったら、他地区から来るのではないか。例えば袋井の宇刈や桜木の家代、あんりこども園は和田岡を受け入れているので、その子どもたちも原野谷学園に来るということもあるのではないか。2学級を維持するため、住宅地を作ることもあるだろう。維持する形で学園を作っていたらいいと思う。他地区からどんどん「来てしまう」学校を作っていたらいいと思う。他地区から持ってくるか、学校の位置をじっくり検討していただき、いいところに素晴らしい学校を作っていたらいい。

【事務局の回答】

- ・検討委員会の中でも類似した御意見が出ており、これからでき上がる報告書にも記載されると思う。先ほど外国人の子どもが多い学校とかいろんな特色のある学校で生徒を増やしたり学校を盛り立てていくということも御意見として伺います。

11 **【本郷西の方】**

○最短でいつ何年後くらいに建物を建てることができるのか。建設場所も原野谷中学校で確定しているのか。

○他の候補の場所があるのなら教えていただきたい。

【事務局の回答】

- ・基本構想を1年以上かけて検討し、その後、基本設計、実施設計を行い、工事となる。概ね6～7年ぐらいかかるだろうと考えている。設置場所は、基本構想の中で考えていくようになる。検討に際しては、地域や専門的な知見を伺いながら基本構想を作成していく予定である。

12

【原里の方】

- どの状況までいったら基本構想の策定にかかれるのか。最短で何年後くらいに校舎の建物を建てるのか。建設場所も原野谷中学校で確定しているのか。
- 掛川市全域小中学校にエアコンが入ることは承知している。先ほど保護者が通学について心配されているとおり、暑い時期に、低学年の子が昼過ぎくらいが一番暑い時間帯に、真っ赤な顔をして下校すると思うが、そこを4キロ歩いて帰るのは心配になる。昨今熱中症で子どもが倒れるということも聞くので、教室の中は快適、でも通学途中は危険ということを、キロ数に関係なく対応してほしい。アスファルトに囲まれた原谷地区の子たちは本当に暑く、排気ガスもひどいので、一律4キロという考え方ではなく、保護者が納得するような通学経路を考えてあげてほしい。

【事務局の回答】

- ・基本構想を始める時期は、いただいた提言書を研究しながら、併せて先ほど申しました市内全域の学校の適正規模、適正配置の方法を調査・研究し、その中で、概ね市の目指す学校のあり方がはっきりした段階で、提言をどのように進めていくか、ということに着手できるかと思う。具体的にそれが来年からとか、再来年からというのは申し上げられないが、原野谷地区は一步も二歩も前に進んでおり、できるだけ早く原野谷地区の学校について着手していきたい。
- ・通学の距離については、エアコンを設置する際に話題として出されている。今後検討が必要だと考えている。

13

【本郷西の方】

- 検討委員会の4番目に、近隣地域との調整等について検討していただきたいという文言があり、5番目の施設の整備の流れの中の、2行目に、市内小中学校を対象とした小中学校の再編計画を検討するとある。これには学級編成と教職員定数に関わる標準法があり、単純に他の学校の生徒をこっちに持ってくるというわけにはいかないと思う。その辺と絡めて、小中学校の再編についてどのように考えるか、現在の段階でそういう考えがあるのかどうか、教えていただきたい。例えば、原野谷中学が施設一体型の学校になり、この学校に行きたいとなれば再編するという方法もある。その前に再編し、弾力化していくということもある。ただ、標準法そのもののしぼりはかなり厳しいと思う。

【事務局の回答】

- ・全市的に今後調査研究していかないといけないと考えている。来年1年以上かかるかもしれないが、併せて今回の小中一貫の事業も進めていくということになる。施設一体型と学校再編の関係について、全市的な中の一つとして考えていきたいと思う。